

1

[大阪大・文]

平面上に長さ 2 の線分  $AB$  を直径とする円  $C$  がある。2 点  $A, B$  を除く  $C$  上の点  $P$  に対し、 $AP = AQ$  となるように線分  $AB$  上の点  $Q$  をとる。また、直線  $PQ$  と円  $C$  の交点のうち、 $P$  でない方を  $R$  とする。このとき、以下の問いに答えよ。

- (1)  $\triangle AQR$  の面積を  $\theta = \angle PAB$  を用いて表せ。
- (2) 点  $P$  を動かして  $\triangle AQR$  の面積が最大になるとき、 $\overrightarrow{AR}$  を  $\overrightarrow{AB}$  と  $\overrightarrow{AP}$  を用いて表せ。

2

[北海道大・文]

平面において、一直線上にない3点  $O, A, B$  がある。 $O$  を通り直線  $OA$  と垂直な直線上に  $O$  と異なる点  $P$  をとる。 $O$  を通り直線  $OB$  と垂直な直線上に  $O$  と異なる点  $Q$  をとる。ベクトル  $\overrightarrow{OP} + \overrightarrow{OQ}$  は  $\overrightarrow{AB}$  に垂直であるとする。

(1)  $\overrightarrow{OP} \cdot \overrightarrow{OB} = \overrightarrow{OQ} \cdot \overrightarrow{OA}$  を示せ。

(2) ベクトル  $\overrightarrow{OA}, \overrightarrow{OB}$  のなす角を  $\alpha$  とする。ただし、 $0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$  とする。このときベ

クトル  $\overrightarrow{OP}, \overrightarrow{OQ}$  のなす角が  $\pi - \alpha$  であることを示せ。

(3)  $\frac{|\overrightarrow{OP}|}{|\overrightarrow{OA}|} = \frac{|\overrightarrow{OQ}|}{|\overrightarrow{OB}|}$  を示せ。

3

[一橋大]

$xyz$  空間において、原点を中心とする  $xy$  平面上の半径 1 の円周上を点  $P$  が動き、点  $(0, 0, \sqrt{3})$  を中心とする  $xz$  平面上の半径 1 の円周上を点  $Q$  が動く。

- (1) 線分  $PQ$  の長さの最小値と、そのときの点  $P, Q$  の座標を求めよ。
- (2) 線分  $PQ$  の長さの最大値と、そのときの点  $P, Q$  の座標を求めよ。

4

[京都大・文]

$xyz$  空間の中で、 $(0, 0, 1)$  を中心とする半径  $1$  の球面  $S$  を考える。点  $Q$  が  $(0, 0, 2)$  以外の  $S$  上の点を動くとき、点  $Q$  と点  $P(1, 0, 2)$  の  $2$  点を通る直線  $l$  と平面  $z = 0$  との交点を  $R$  とおく。 $R$  の動く範囲を求め、図示せよ。

1

[大阪大・文]

- (1)  $0 < \theta < \frac{\pi}{2}$  のとき, AB が直径なので  $\angle APB = \frac{\pi}{2}$  より,

$$AP = AB \cos \theta = 2 \cos \theta$$

すると, 条件より,  $AQ = 2 \cos \theta$ ,  $BQ = 2 - 2 \cos \theta$

また,  $\angle AQP = \frac{1}{2}(\pi - \theta) = \frac{\pi}{2} - \frac{\theta}{2}$  から,

$$PQ = 2AQ \cos\left(\frac{\pi}{2} - \frac{\theta}{2}\right) = 4 \cos \theta \sin \frac{\theta}{2}$$

ここで, 方べきの定理より,  $PQ \cdot RQ = AQ \cdot BQ$  となり,

$$4 \cos \theta \sin \frac{\theta}{2} \cdot RQ = 2 \cos \theta (2 - 2 \cos \theta), \quad RQ = \frac{1 - \cos \theta}{\sin \frac{\theta}{2}} = \frac{2 \sin^2 \frac{\theta}{2}}{\sin \frac{\theta}{2}} = 2 \sin \frac{\theta}{2}$$

そこで,  $\triangle AQR$  の面積を  $S$  とすると,  $\angle AQR = \pi - \angle AQP = \frac{\pi}{2} + \frac{\theta}{2}$  より,

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} \cdot 2 \cos \theta \cdot 2 \sin \frac{\theta}{2} \cdot \sin\left(\frac{\pi}{2} + \frac{\theta}{2}\right) = 2 \cos \theta \sin \frac{\theta}{2} \cos \frac{\theta}{2} \\ &= \cos \theta \sin \theta = \frac{1}{2} \sin 2\theta \end{aligned}$$

- (2) (1)より,  $S$  が最大になるのは,  $\sin 2\theta = 1$  すなわち  $\theta = \frac{\pi}{4}$  のときである。

このとき,  $PQ : QR = 4 \cos \frac{\pi}{4} \sin \frac{\pi}{8} : 2 \sin \frac{\pi}{8} = \sqrt{2} : 1$  となり, 点  $R$  は線分  $PQ$  を  $(\sqrt{2} + 1) : 1$  に外分することより,

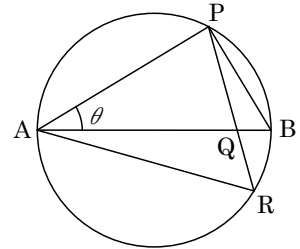
$$\overrightarrow{AR} = \frac{-\overrightarrow{AP} + (\sqrt{2} + 1)\overrightarrow{AQ}}{(\sqrt{2} + 1) - 1} = -\frac{1}{\sqrt{2}}\overrightarrow{AP} + \frac{\sqrt{2} + 1}{\sqrt{2}}\overrightarrow{AQ}$$

また,  $AQ = 2 \cos \frac{\pi}{4} = \sqrt{2}$  から,  $\overrightarrow{AQ} = \frac{\sqrt{2}}{2}\overrightarrow{AB}$  となるので,

$$\overrightarrow{AR} = -\frac{1}{\sqrt{2}}\overrightarrow{AP} + \frac{\sqrt{2} + 1}{\sqrt{2}} \cdot \frac{\sqrt{2}}{2}\overrightarrow{AB} = -\frac{\sqrt{2}}{2}\overrightarrow{AP} + \frac{\sqrt{2} + 1}{2}\overrightarrow{AB}$$

### [解説]

よく見かける構図の三角関数の図形への応用問題です。上記以外にも, いろいろな解法が考えられます。たとえば, 点  $A$  を原点, 点  $B$  を  $x$  軸上の点として  $xy$  平面で, というのも脳裏に浮かびましたが, 計算量を考えて……。



2

[北海道大・文]

- (1) まず,  $a > 0$ ,  $r > 0$ ,  $0 < \alpha < \pi$  として,  $xy$  平面上で,  
 $\overrightarrow{OA} = (a, 0)$ ,  $\overrightarrow{OB} = r(\cos \alpha, \sin \alpha)$  とおく。

すると, 条件より,  $p \neq 0$ ,  $q \neq 0$  として,

$$\overrightarrow{OP} = (0, p), \quad \overrightarrow{OQ} = q(\sin \alpha, -\cos \alpha)$$

さらに,  $\overrightarrow{OP} + \overrightarrow{OQ}$  と  $\overrightarrow{AB}$  が垂直なので,

$$(\overrightarrow{OP} + \overrightarrow{OQ}) \cdot \overrightarrow{AB} = 0$$

ここで,  $\overrightarrow{OP} + \overrightarrow{OQ} = (q \sin \alpha, p - q \cos \alpha)$ ,  $\overrightarrow{AB} = (r \cos \alpha - a, r \sin \alpha)$  から,

$$q \sin \alpha (r \cos \alpha - a) + (p - q \cos \alpha) r \sin \alpha = 0$$

$\sin \alpha > 0$  より,  $q(r \cos \alpha - a) + r(p - q \cos \alpha) = 0$ ,  $pr - aq = 0 \dots \dots (*)$

さて,  $\overrightarrow{OP} \cdot \overrightarrow{OB} = pr \sin \alpha$ ,  $\overrightarrow{OQ} \cdot \overrightarrow{OA} = aq \sin \alpha$  なので,  $(*)$  から,

$$\overrightarrow{OP} \cdot \overrightarrow{OB} = \overrightarrow{OQ} \cdot \overrightarrow{OA}$$

- (2)  $\overrightarrow{OP}$ ,  $\overrightarrow{OQ}$  のなす角を  $\beta$  ( $0 < \beta < \pi$ ) とおくと,  $\cos \beta = \frac{\overrightarrow{OP} \cdot \overrightarrow{OQ}}{|\overrightarrow{OP}| |\overrightarrow{OQ}|} = \frac{-pq \cos \alpha}{|p| |q|}$

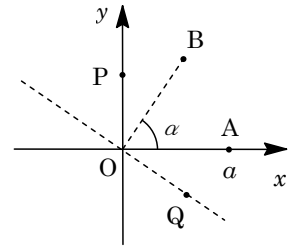
ここで,  $(*)$  から  $p$  と  $q$  は同符号なので,  $|p| |q| = |pq| = pq$  となり,

$$\cos \beta = \frac{-pq \cos \alpha}{pq} = -\cos \alpha = \cos(\pi - \alpha)$$

$0 < \alpha < \frac{\pi}{2}$  より,  $\frac{\pi}{2} < \pi - \alpha < \pi$  となるので,  $\beta = \pi - \alpha$  である。

- (3)  $(*)$  より,  $pr = aq$  となり,  $r|p| = a|q|$  である。

よって,  $|\overrightarrow{OB}| |\overrightarrow{OP}| = |\overrightarrow{OA}| |\overrightarrow{OQ}|$  から,  $\frac{|\overrightarrow{OP}|}{|\overrightarrow{OA}|} = \frac{|\overrightarrow{OQ}|}{|\overrightarrow{OB}|}$  となる。



### [解説]

まず, 2つの垂直関係から, 座標の設定という方法を考えました。しかし, (1)を解くと, その考え方を採用するほどでもないことがわかり, それで押し通そうとも思ったのですが, (3)で暗雲が漂いはじめました。ということで, リセットして……。

3

[一橋大]

- (1) 原点が中心で  $xy$  平面上の半径 1 の円周上の点  $P$  は、 $P(\cos\theta, \sin\theta, 0)$  と表せる。ただし  $0 \leq \theta < 2\pi$  である。また、点  $(0, 0, \sqrt{3})$  が中心で  $xz$  平面上の半径 1 の円周上の点  $Q$  は、 $Q(\cos\varphi, 0, \sqrt{3} + \sin\varphi)$  と表せる。ただし  $0 \leq \varphi < 2\pi$  である。

$$\begin{aligned} PQ^2 &= (\cos\theta - \cos\varphi)^2 + \sin^2\theta + (\sqrt{3} + \sin\varphi)^2 \\ &= 1 - 2\cos\theta\cos\varphi + 1 + 3 + 2\sqrt{3}\sin\varphi = -2\cos\theta\cos\varphi + 2\sqrt{3}\sin\varphi + 5 \end{aligned}$$

ここで、 $\vec{u} = (-\cos\theta, \sqrt{3})$ 、 $\vec{v} = (\cos\varphi, \sin\varphi)$  とおくと、

$$PQ^2 = 2\vec{u} \cdot \vec{v} + 5$$

さて、まず  $\theta$  を  $0 \leq \theta < 2\pi$  で固定して考えると、線分  $PQ$  の長さが最小となるのは、 $\vec{v}$  が  $\vec{u}$  と逆向きになるときである。このとき  $PQ^2$  の最小値は、

$$2\sqrt{\cos^2\theta + 3} \cdot 1 \cdot \cos\pi + 5 = -2\sqrt{\cos^2\theta + 3} + 5$$

さらに、 $0 \leq \cos^2\theta \leq 1$  から、 $\cos\theta = \pm 1$  のとき、 $PQ^2$  は最小値  $-2\sqrt{1+3} + 5 = 1$ 、すなわち  $PQ$  は最小値 1 をとる。

- (i)  $\cos\theta = 1$  ( $\theta = 0$ ) のとき

$$\vec{u} = (-1, \sqrt{3}) \text{ となり、} \varphi = \frac{2}{3}\pi + \pi = \frac{5}{3}\pi \text{ となるので、}$$

$$P(1, 0, 0), Q\left(\frac{1}{2}, 0, \frac{\sqrt{3}}{2}\right)$$

- (ii)  $\cos\theta = -1$  ( $\theta = \pi$ ) のとき

$$\vec{u} = (1, \sqrt{3}) \text{ となり、} \varphi = \frac{\pi}{3} + \pi = \frac{4}{3}\pi \text{ となるので、}$$

$$P(-1, 0, 0), Q\left(-\frac{1}{2}, 0, \frac{\sqrt{3}}{2}\right)$$

- (2) (1)より、線分  $PQ$  の長さが最大となるのは、 $\vec{v}$  が  $\vec{u}$  と同じ向きになるときである。このとき  $PQ^2$  の最大値は、

$$2\sqrt{\cos^2\theta + 3} \cdot 1 \cdot \cos 0 + 5 = 2\sqrt{\cos^2\theta + 3} + 5$$

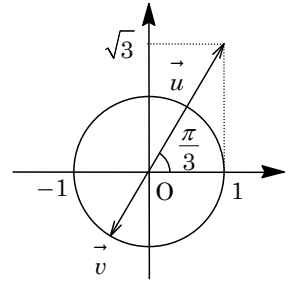
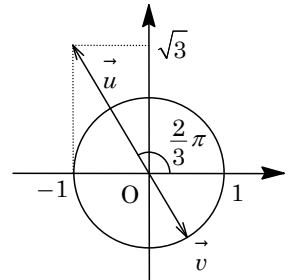
さらに  $\cos\theta = \pm 1$  のとき、 $PQ^2$  は最大値  $2\sqrt{1+3} + 5 = 9$ 、 $PQ$  は最大値 3 をとる。

- (i)  $\cos\theta = 1$  ( $\theta = 0$ ) のとき  $\vec{u} = (-1, \sqrt{3})$  となり、 $\varphi = \frac{2}{3}\pi$  となるので、

$$P(1, 0, 0), Q\left(-\frac{1}{2}, 0, \frac{3}{2}\sqrt{3}\right)$$

- (ii)  $\cos\theta = -1$  ( $\theta = \pi$ ) のとき  $\vec{u} = (1, \sqrt{3})$  となり、 $\varphi = \frac{\pi}{3}$  となるので、

$$P(-1, 0, 0), Q\left(\frac{1}{2}, 0, \frac{3}{2}\sqrt{3}\right)$$



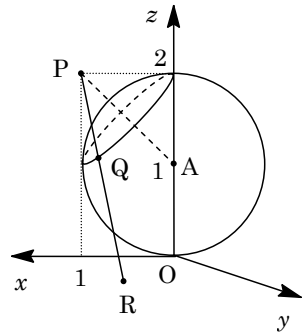
## [解説]

1 文字固定の最大・最小問題です。内積の定義を利用して、図で考えています。

4

[京都大・文]

中心を  $A(0, 0, 1)$  とする半径 1 の球面  $S$  上にあり、点  $(0, 0, 2)$  以外を動く点  $Q$  に対し、点  $P(1, 0, 2)$  と点  $Q$  を結ぶ直線  $l$  が平面  $z=0$  と交わる点を  $R(x, y, 0)$  とおく。



そして、 $\overrightarrow{PA}$  と  $\overrightarrow{PR}$  のなす角を  $\theta$  とし、直線  $l$  が球面  $S$  に接するとき、 $\theta = 45^\circ$  であることに注目すると、

$$\overrightarrow{PA} \cdot \overrightarrow{PR} = |\overrightarrow{PA}| |\overrightarrow{PR}| \cos \theta = \frac{1}{\sqrt{2}} |\overrightarrow{PA}| |\overrightarrow{PR}| \cdots \cdots \textcircled{1}$$

ここで、 $\overrightarrow{PA} = (-1, 0, -1)$ 、 $\overrightarrow{PR} = (x-1, y, -2)$  から、

$$\overrightarrow{PA} \cdot \overrightarrow{PR} = -(x-1) + 2 = -x + 3, \quad |\overrightarrow{PA}| = \sqrt{(-1)^2 + 0 + (-1)^2} = \sqrt{2}$$

$$|\overrightarrow{PR}| = \sqrt{(x-1)^2 + y^2 + (-2)^2} = \sqrt{x^2 + y^2 - 2x + 5}$$

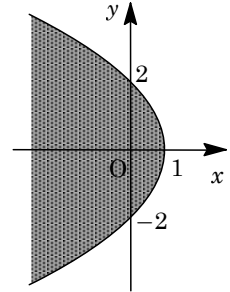
①に代入すると、 $-x + 3 = \frac{1}{\sqrt{2}} \cdot \sqrt{2} \cdot \sqrt{x^2 + y^2 - 2x + 5}$  となり、

$x \leq 3$  のもとで、

$$(-x + 3)^2 = x^2 + y^2 - 2x + 5, \quad x = -\frac{1}{4}y^2 + 1 \cdots \cdots \textcircled{2}$$

②は  $x \leq 3$  を満たし、点  $Q$  が球面  $S$  上を動くとき、点  $R$  の動く範囲は、②を境界線とし原点を含む側である。

図示すると右図の網点部となる。ただし、境界は領域に含む。



[解説]

20 年以上も前になりますが、そのころ頻出していた点光源の問題です。内積を用いて円錐側面の式を立て、境界線を導いています。この方法の詳細は「ピンポイントレクチャー」を参照してください。